

# 『渋谷川って、どんな川だったの?』

What was Shibuya River like?

現在、渋谷駅東口の地下では、暗渠となった渋谷川の移設工事が行われています。しかし、暗渠となる前の渋谷川は、新宿御苑に水源を持つ流量豊富な川で、その支流の河骨川は、唱歌「春の小川」の舞台とされています。

春の小川 (高野辰之作詞)

一 春の小川は ささらさら流る  
岸のすみれや れんげの花に  
匂ひめでたく 色うつくしく  
咲けよ咲けよと ささやく如く

二 春の小川は ささらさら流る  
蝦やめだかや 小鮒の群れに  
今日も一日 ひなたに出でて  
遊べ遊べと ささやく如く

三 春の小川は ささらさら流る  
歌の上手よ いとしき子ども  
声をそろへて 小川の歌を  
歌へ歌へと ささやく如く



現在も新宿御苑内の「下の池」から流れ出る渋谷川の源流



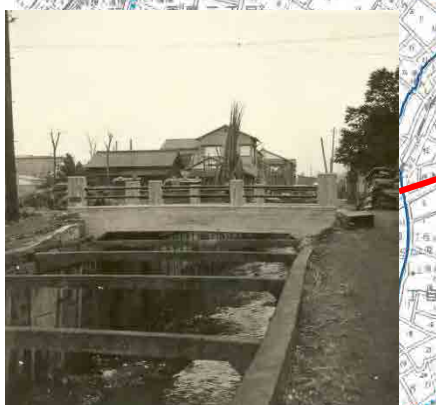
巖橋。現神宮前二丁目7番付近 (昭和28年頃)



下流から八千代橋を望む(昭和36年)



小田急線沿いを流れる河骨川 (昭和31年)



宇田川にかかっていた五石橋。現神山町5番付近(昭和34年)

渋谷川は、元々、新宿御苑に水源を持ち、渋谷区・港区内（港区内は「古川」と呼ぶ。）を流れて東京湾に流れ込む全長約10kmの川でした。

かつて、渋谷川には、宇田川などいくつかの支流がありました。宇田川の支流であった河骨川は、唱歌「春の小川」の舞台になったとされ、農村の小川のようなのどかな風景が戦後しばらく存在していました。

戦前から、水害対策・宅地化・下水道整備などの理由で、渋谷川支流の小河川については、埋立や暗渠化が行われていましたが、部分的なものにとどまっていた。

戦後、昭和25年（1950）の「東京都市計画下水道」の告示、昭和36年（1961）の「東京都市計画河川下水道調査特別委員会答申」を経て、渋谷川は宮益橋から上流の区域を暗渠化して、下水道幹線として使用することが決まりました。

また、東京オリンピックの開催に向けて、公共下水道の普及が必要となったこともあり、渋谷川上流の暗渠化工事は急ピッチで進み、昭和39年（1964）には、下水道「千駄ヶ谷幹線」として整備されました。

昭和40年代初頭までには、渋谷川上流（稲荷橋以北）と支流のほとんどが地表から姿を消すことになりました。



上流から宮益橋（現みずほ銀行渋谷支店の脇）を見る（昭和34年）



渋谷駅付近の川(大正10年頃)

(注) 図・写真については、白根記念渋谷区郷土博物館・文学館発行『「春の小川」の流れた街・渋谷』及び渋谷区教育委員会発行『渋谷の記憶』より転載 また、本パネルの図は地図に以前の渋谷川等の流れを重ねたものです